

基本目標1 ライフステージに応じたスポーツの推進

※総合型地域スポーツクラブ (に):にしはらスポーツクラブ
(こ):ココスポ東伏見

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					担当課評価コメント	評価	次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画
					評価の着眼点								
					I	II	III	IV	V				
(1) 子どものスポーツ推進	① 子どもがスポーツに親しむ場の充実 公共施設や公園などに、子どものためのスポーツ指導者の派遣やスポーツに関連するプログラムの提供などを体系的に行うことにより、子どもがスポーツを楽しめる場を充実します。	児童青少年課	東京都スポーツ文化事業団の指導者派遣等を利用するなど、各児童館の施設の特性に合わせた運動イベントの開催	・東京都スポーツ文化事業団の指導者派遣等を利用し、バレーボールを実施 ・東京都レクリエーション協会の指導者派遣等を利用し、スポーツチャンバラを実施	4	4	4	4	4	東京都スポーツ文化事業団の指導者派遣等を利用するなど各館の施設の特性に合わせた運動イベントを開催することにより、児童館の周知と利用を促進し、子どもの居場所づくりに繋げた。	A	指導者派遣を申請するため、日程調整等が課題。	東京都スポーツ文化事業団の指導者派遣等を利用するなど、各児童館の施設の特性に合わせた運動イベントの開催を検討する。
		指定管理者	・健康広場・芝久保運動場の個人開放 ・向台運動場での月1回の屋外施設無料開放デーの実施	健康広場・芝久保運動場の開放及び向台運動場の開放事業を実施	4	4	4	4	4	芝久保運動場の個人開放は幼稚園利用が主となり、6年度は利用者0人。健康広場個人開放では、前年比139%利用増となった。	A	高温時に開催するかどうかの判断。	・健康広場・芝久保運動場の個人開放 ・向台運動場での月1回の屋外施設無料開放デーの実施
		総合型地域スポーツクラブ	東京ドームとタグラグビーを協賛予定(9月)(に)	10月5日にタグラグビーをスポーツセンター体育館(雨天の為)で実施、参加者約30名(に)	5	4	4	4	4	雨天のため体育館で実施したが、子供達はとても楽しく参加した。(に)	A	小学生ラグビーについては東京ドームとの打ち合わせにて決定する。(に)	未就学児～6年生までの初心者教室で会員を増やしたい。(に)
			子供向けプログラムや教室の実施(こ)	親子リトミックからダンス系、バスケットボール、テニス、サッカーなど競技系プログラムを実施(こ)	4	4	4	4	4	概ね計画どおり実施できたが、引き続き参加者を増やす工夫が課題である。(こ)	A	参加者が安定しないプログラムもあり、広報など徹底していく。(こ)	今までの事業を継続しつつ新たな取り組みも試みる。(こ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	小学生から参加可能な市外で実施するウォーキング事業(春又は秋、七福神ウォーキング)	・令和6年5月11日【春】～新緑の玉川上水緑道を歩き昭和記念公園で遊ぼう～ 参加者20名 ・令和7年1月5日【七福神】～下谷七福神ウォーキング～(台東区) 参加者58名	4	4	3	4	4	概ね計画どおり実施できた。	A	団体行動のあり方について。	小学生から参加可能な市外で実施するウォーキング事業(秋、七福神ウォーキング) ※春はスポーツ推進委員の改選期のため実施せず。
	② 子どもがスポーツに親しむ機会の充実 子どものスポーツ機会の充実を目的として、各種教室・大会等を企画・開催します。	児童青少年課	各児童館毎にスポーツを身近なものと感じられるようなイベントを企画(卓球・ポッチャ等)	・各児童館でポッチャを開催 ・児童館キャンプや児童館ではモルックを実施	4	4	4	4	4	「ポッチャ」「モルック」等、子どもたちにとってなじみの薄い競技も実施され、運動を楽しむだけでなく、子どもたちの興味の幅を広げるきっかけとなった。	A	各児童館ごとに状況が異なるため、職員・用具・空間の体制整備が必要。	各児童館毎にスポーツを身近なものと感じられるようなイベントを企画(卓球・ポッチャ等)
		指定管理者	・子どもプール教室、アルバルクバスケットボール教室、池田体操教室等 ・スポーツフェスティバルの開催	各事業とも通年を通して開催	4	4	4	4	4	各館で15教室実施しており、参加人数も前年比105%増となった。	A	スポーツフェスティバルの開催時期の再検討(市総体等と日程が同じになったため)	・子どもプール教室、アルバルクバスケットボール教室、池田体操教室等の実施 ・スポーツフェスティバルの開催
		体育協会	・スポーツ教室の実施 ・スポーツまつりの実施 ・リレーマラソンの実施	・スポーツ教室の実施:参加人数約9,000名 ・スポーツまつりの実施:参加人数約3,700名 ・リレーマラソンの実施:参加60チーム	4	4	4	4	4	全体としては計画通りであったが、リレーマラソンの小学生以下が少なかった。	A	・スポーツまつりについては種目の検討を行う。 ・リレーマラソンについては子どもの参加増にむけた検討を検討する。	・スポーツまつり競技種目及びイベントで参加しやすいものを開催前の早い段階で決める。 ・リレーマラソンは小学生以下の参加者数目標を50名以上とする。
		総合型地域スポーツクラブ	20回記念小学生バドミントン大会を実施予定(に)	20回記念小学生バドミントン大会を12月15日に総合体育館にて実施:参加者78名(に)	5	5	4	5	4	大幅に上回る申し込みがあり盛況だった。(に)	A	スタッフの確保など困難。原状での開催が難しい。(に)	小学生バドミントン大会は例年通りクラブ体育館にて実施(に)
			子供向けプログラムや教室の実施(こ)	通常のプログラム以外に早稲田大学体育各部の学生によるフセチャレサッカーやベースボールなど開催(こ)	4	4	4	4	4	早稲田大学東伏見キャンパスが近くにある地域性を生かし、スポーツ部の協力をいただき子ども向け事業を実施することができた。(こ)	A	不定期開催のため参加者が集まらないケースもあった。(こ)	募集の告知を徹底する。(こ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	ドッジボール大会開催 6月:3・4年生対象 2月:5・6年生対象	・令和6年6月23日【3・4年生】105名 ・令和7年2月16日【5・6年生】46名	4	4	3	4	4	概ね計画通り実施できたが、保護者同士のつながりの希薄化や就労等により参加チーム数が戻らないことが課題である。	A	・5・6年生交流会は事前指導が、卒業式準備等により体育館の使用ができず、6年生の4チームの申込に留まった。 ・市内小学校の保護者へ周知するも保護者同士のつながりが希薄になり連絡先が分からず、チームが組みにくくなるなど、参加申込が減少している。	令和7年7月5日(土):3・4年生対象 令和8年2月14日(土):5・6年生対象 会場:西東京市スポーツセンター
③ スポーツに親しむきっかけづくり だれもが気軽にスポーツを楽しむことができるよう、親しみやすい初心者向け教室やイベント、ニュースポーツイベント等を企画・開催します。	児童青少年課	各児童館毎にスポーツを身近なものと感じられるようなイベントを企画(卓球・ポッチャ等)	・各児童館でポッチャを開催 ・児童館キャンプや児童館ではモルックを実施	4	4	3	4	4	「ポッチャ」「モルック」等、子どもたちにとってなじみの薄い競技も実施され、運動を楽しむだけでなく、子どもたちの興味の幅を広げるきっかけとなった。	A	各児童館ごとに状況が異なるため、職員・用具・空間の体制整備が必要。	各児童館毎にスポーツを身近なものと感じられるようなイベントを企画(卓球・ポッチャ等)	
	指定管理者	モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催	・モルック体験会年5回 ・スポーツフェスティバルを開催 ・ニュースポーツを体験していただく事ができた。	4	4	4	4	4	モルック体験会、大会では天候による中止があったが、多くの方に参加いただけた	A	スポーツフェスティバルの開催時期の再検討(市総体等と日程が同じになったため)	モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催	
	体育協会	・スポーツまつりの実施 ・ポッチャ教室の実施	・スポーツまつりの実施:参加人数約3,700名 ・モルック体験教室の実施:参加延べ人数35名	4	4	4	4	4	ほぼ計画通りであった。	A	・スポーツまつりは種目の検討を行い、より親しみやすいイベントにしたい。 ・モルックは広報活動を通して、参加者数を増やしたい。	・スポーツまつり競技種目及びイベントで参加しやすいものを開催前の早い段階で決める。 ・モルックについては1日当たりの参加者数を20名以上とする。	

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課評価コメント	評価
					I	II	III	IV	V				
		総合型地域スポーツクラブ	・新競技、ポッチャ(木)月2回(に) ・健康麻雀も再開(に)	・ポッチャ月2回(に) ・健康麻雀毎週(に) ・グラウンドゴルフターゲットバードゴルフ月8回開催(に)	5	5	5	5	4	平日は毎日数時間、個人参加と教室の実施あり。各教室2人から30人以上の参加者あり、高齢者の健康維持に貢献している。(に)	A	・新競技モルックを月1～2回実施したい。(に)	モルック、ノルディックウォーキングの定期的開催、ホームページの活用(に)
			ダンス3種類、バスケットボール、テニス、サッカーなど週1回(以上)定期開催。※レベル別の教室有(コ)	前年までと同レベルで実施(コ)	3	4	4	4	3	例年どおり誰もが気軽にスポーツを楽しめるよう実施できたが、広報の方法を工夫する余地がある。(コ)	B	他のクラブ(特にバスケ)が熱心に勧誘していて会員が流れてしまうケースもあった。(コ)	より内容も充実させてココスポでしか経験出来ないこともどんどん取り入れていきたい。(コ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	ENJOYニュースポーツ(毎月最終日曜日開催)	・市内在住・在勤・在学者(小学生以上) ・毎月最終日曜日開催 12回開催 参加人数372名 ・実施種目:ポッチャ、モルック、輪投げ等	4	4	4	4	4	親子連れや、若い参加者も増えてきており、計画通り実施できた。	A	実施種目の検討をしながら、引き続き実施。	毎月最終日曜日開催し3月については交流会を開催する。
④	トップアスリートに触れる機会の推進 様々な種目のトップアスリートの経験談を聞く機会、スポーツ教室等において実際のパフォーマンスを見る機会等、トップアスリートと直接触れ合う機会を提供します。	指定管理者	・FC東京との連携事業 ・スポーツフェスティバルでの著名人の講師依頼	・三菱UFJ銀行、体育協会と連携したサッカー元日本代表 李忠成 氏のサッカー教室を開催 ・日本テレビとの提携事業で、バレーボール女子元日本代表大山加奈 氏と妹の未希 氏のバレーボール教室を実施	4	4	4	4	4	オリンピックメダリスト等のトップアスリートから直接指導が受けられた。サッカー166名参加。ドリームコーチング34名参加。	A	講師の選別(人気のあるゲストは経費がかかり、時期によっては参加者が少なくなる)	・FC東京との連携事業 ・スポーツフェスティバルでの著名人の講師依頼
		総合型地域スポーツクラブ	今年度実施なし(に)	小学生チアダンス教室にて大学生選手と連携(に)	2	4	4	4	3	現状の指導者は有資格者である為、新たに機会を設ける必要は無い。(に)	B	多岐にわたる実施のため、より多くの機会が持てなかった。(に)	・プロ選手との連携を増やす。(に)
			バスケットボールなどプロ選手や大学トップレベルの選手と連携(コ)	令和6年度はバスケットボールレベル別スクールが開講10周年であることから、監修を務めていただいている倉石先生の特別クリニックを小中学生向けに2日間学年別に開催した。(コ)	4	4	4	5	5	地域性を生かし、大学バスケットボール部監督やプロ選手を呼び、直接触れ合う機会を提供できた。(コ)	A	基本的にはアスリートのオフ期間を活用して実施しているため、開催日の決定が急だったり調整が難しいケースもある。(コ)	引き続き密に連絡を取って少しでもチャンスがあれば実施できるよう繋げていきたい。(コ)
		スポーツ振興課	早稲田大学野球教室(春・秋)の実施	・早稲田大学と連携し小中学生の野球チームを対象とした早稲田大学野球教室を開催 ・児童・生徒間及び大学生との交流の機会の提供、競技力向上を図った。 ・参加者数 春季・秋季総勢430名(児童・生徒が参加)	4	4	3	4	4	市内の大学と連携し、現役学生選手から指導を受け交流の機会にもつながった。	A	大学野球や準硬式野球で活躍している学生と子どもたちが交流を図ることで、野球の楽しさや野球への憧れを持ち続けられるよう、関係者と連携を図り野球教室が続けられるよう取り組む。	・早稲田大学野球教室の開催 ・早稲田大学競技スポーツセンター、早稲田大学硬式野球部・準硬式野球部、市内軟式野球連盟少年部、市内リトルシニア野球協会との連携
⑤	競技力向上につながるスポーツの機会の充実、活動の支援 スポーツへの意欲が高く、競技力の向上を目指す人の活動を支えるため、市内及び周辺地域の指導者やクラブの情報提供、活動の支援等に取り組みます。	指定管理者	指導者講習会の実施(Vリーガーを招いてのジュニアバレーボール教室開催予定)	・定期的にVリーガーを招いた成人向けやジュニアバレーボール教室を開催。 ・指導者講習会は未実施	3	3	3	3	3	東京グレートベアーズによる教室事業実施しているが、指導者講習会は未実施。	B	指導者講習会の講師依頼が困難である。	指導者講習会の実施(Vリーガーを招いてのジュニアバレーボール教室開催予定)
		体育協会	・都民スポーツ大会や市町村大会等上部大会への選手派遣 ・スポーツ相談窓口の充実	・都民スポーツ大会は参加数210名、市町村大会は参加数132名 ・スポーツ相談窓口の相談実績50件	4	4	4	4	4	・大会参加は計画通り。 ・スポーツ相談窓口は相談しやすい環境整備が必要。	A	スポーツ相談窓口の利用促進のための広報活動を行う。	・上部大会への参加者数は昨年並みを目標とする。 ・相談窓口はLINE相談を増やし、これまでの実績を上回る相談数を目標とする。
		総合型地域スポーツクラブ	今年度実施なし(に)	少年サッカー、野球、ダンスに環境、活動物資の一部支援(に)	4	4	5	5	4	グラウンド、テニスコート使用時や、悪天候時の整備の充実により活動を支援。(に)	A	グラウンド用具破損時の修理、購入経費が高額に。(に)	よりコミュニケーションを取り連携(に)
			・年1回バスケットボールB1選手によるクリニックの開催(すでに4月開催)(コ) ・テニス・サッカーでも大学生トップ選手と連携を継続(コ)	例年の通り開催。プロ選手や大学生にとっても社会貢献活動の一環として積極的に参加してくれた。(コ)	3	4	4	4	4	地域性を生かし、大学バスケットボール部監督やプロ選手を呼び、直接触れ合う機会を提供できた。(コ)	A	スケジュール調整が上手く行かないケースが多々見られた。(コ)	大会や練習のスケジュールに左右されるため日頃から連絡を取って密に計画を立てる。(コ)
		スポーツ振興課	・FC東京との連携 ・「西東京の日」の実施 ・サッカー教室の実施	・主催事業(市民まつり、市民スポーツまつり)でのFC東京によるキックターゲットの体験コーナー開催 ・FC東京西東京の日の実施 ・指定管理者によるサッカー教室の実施	4	4	3	4	4	FC東京と連携し、計画通り実施できた。	A	・FC東京がホームタウンであることの周知 ・FC東京の市内事業の参加や、選手の小学校訪問等を通じて市内のスポーツ振興に繋げるべく連携を強めていきたい。 ・FC東京関係予算がないため、現在あるものを活用して、FC東京を盛り上げられるよう工夫する。	・FC東京との連携 ・FC東京「西東京の日」の実施 ・サッカー教室の実施
⑥	学校部活動の地域連携・地域移行の検討 部活動は、教科学習と異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場であり、教師にとっては長時間勤務の要因となること、指導経験がない等、多大な負担となっていることから、国や東京都は、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革を検討しています。そのことを踏まえ、地域の多様な団体等が学校と連携しながら運営・実施する地域クラブ活動によって、生徒の活動機会を確保していくよう、教育委員会と調整していきます。	教育指導課	協議体に参加し、関係機関と検討	・西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会を年間3回開催 ・令和7年8月頃を目途に報告書を作成するに当たり、学校教育活動である合同部活動又は拠点校方式のチーム1チーム、学校教育活動でない地域移行チーム1チームをモデル実施する案を得ることができた。	4	4	3	4	4	・西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会を年間3回開催できた。 ・令和7年8月頃を目途に報告書を作成するに当たり、学校教育活動である合同部活動又は拠点校方式のチーム1チーム、学校教育活動でない地域移行チーム1チームをモデル実施する案を得ることができた。	A	・合同部活動は学校教育活動であるため、教員が引率する必要がある。教員の働き方改革のために、代表顧問による引率を認める体制を構築する必要がある。 ・地域移行チームは学校教育活動ではないため、教員が顧問になる必要がないが、新たな指導者を配置する必要がある。教員の兼職・兼業を認める体制づくり、中学生を受け入れる団体の開拓が必要である。	・西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会(最終)(以下、委員会という。)を開催する。 ・委員会での検討結果を報告書にまとめ、今後の方針を策定する。
		体育協会	・加盟団体からの指導者派遣 ・相談窓口を通して指導者募集	・加盟団体へ指導者有資格者の調査実施 ・相談窓口で指導者を募集したが、学校への派遣は実現しなかった。	3	3	3	3	2	やるべきことは行ったが、結果にはつながらなかった。	B	行政との連携を通して、実現に向けて協力する。	体協加盟団体と外部団体の利用で指導者派遣へ結びつける。
		総合型地域スポーツクラブ	今年度実施なし(に)	令和6年度実施なし(に)	3	3	2	2	3	学校部活動からの依頼なし。依頼があれば検討していきたい。(に)	B	・令和6年度実施なし(に) ・社会経験のない大学生(院生)の場合は技術指導よりも生活指導の面で未熟さが露呈した。地域移行にはまだまだ程遠いという印象である。(コ)	指導者の派遣を検討(に)

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課評価コメント	評価
I	II	III	IV	V									
			現在、市内3校へバスケットボール、サッカー・テニスの指導者を派遣(コ)	3年目となったがサッカー以外は、指導者が変わった学校もあるが令和6年度も継続している。(コ)	4	4	4	4	4	指導者の手配など課題はあるものの、継続して学校へ派遣が来ている。(コ)	A	関係機関の協力を得ながら継続して実施する。(コ)	様々なケースを想定して地道に取り組む。(コ)
		スポーツ振興課	協議体に参加し、関係機関と検討	西東京市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会にスポーツ振興行政を所管する立場として参加し、学校部活動の地域連携・地域移行に向けて教育委員会をはじめ関係機関と検討を行った。	4	4	4	4	3	教育委員会や関係機関とスポーツ振興課としての検討を行った。	A	これまでの協議体での検討を踏まえ、教育委員会をはじめ関係機関と調整し、学校部活動の地域連携・地域移行の方向性を示せるかが課題である。	課題を踏まえ、引き続き協議体に参加し、教育委員会をはじめ関係機関と調整・検討する。
(2) 成人のスポーツ推進	① 健康づくりにつながるスポーツの推進 成人向けのスポーツを通じた健康増進を図るため、運動健康教室や運動健康相談サービス、体力テストなどの企画・開催を推進します。	健康課	健康ポイントアプリ「あるこ」を活用したイベントを開催予定	・9月に早稲田スポーツフェスタで実地イベントを実施 ・あるこで街なかウォーキングと保育講座(3歳～9歳がいる親子向け) ・アプリ内で、あるチャレを3回、ウォークラリーを実施	4	4	4	4	4	イベントやアプリ内イベントの実施により、歩くことの促進を通して、健康増進に寄与した。	A	健診(検診)の受診と、健康づくりの習慣を持つことを目的とした健康チャレンジの実施。	・あるチャレ、ウォークラリーを3回、市民まつりにて実地イベントの実施予定。 ・健診などの情報についてメッセージによる呼びかけの実施。
		指定管理者	各施設での教室の実施(エアロビクス、ヨガ、健康体操等)	毎日多くの教室を実施	4	4	4	4	4	・成人向けの教室(様々なジャンルのダンス・体操等)実施 ・シルバーウィークで健康体操等実施	A	利用者の声を必ず反映できるとは限らないが、反映できるよう努める。	各施設での教室の実施(エアロビクス、ヨガ、健康体操等)
		体育協会	スポーツ相談窓口の充実	スポーツ相談窓口の相談実績50件	4	4	4	4	4	ほぼ計画通りであった。	A	スポーツ相談窓口の利用促進のための広報活動を行う。	相談窓口はLINE相談を増やし、これまでの実績を上回る相談数を目標とする。
		総合型地域スポーツクラブ	今年度実施なし(に)	ヨガ、フラダンス、バドミントン教室の毎週実施(に)	4	4	4	5	4	毎週各種教室を開催できた。(に)	A	グラウンドの空きが多く、非会員の一般からの使用要望にどう対応していくか。(に)	ホームページでの紹介、ポスターの活用、一般参加の方法を検討する。(に)
			親子も含めて成人が参加できるプログラムの実施(コ)	高齢者向け教室は小規模ながら比較的充実しているため、測定や健康相談は未実施(コ)	4	4	4	4	4	指導者に恵まれ、少人数でもプログラムを楽しみにされている会員がいるため継続していきたい。	A	指導者の人材確保及び費用面での課題がある。(コ)	引き続き現状を確保しながら継続できるよう取り組む。(コ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	体力テスト(10月)の実施	173名が参加	4	4	4	4	4	特に働き盛りの方から高齢者まで参加していただき、健康づくりのきっかけになった。	A	3月に東京都国民健康保険団体連合会から骨密度計測器の借用を打診したが、すでに他市区への貸出が決定していたため借りれなかった。次年度は実施日程が決まり次第、借用依頼をかけるようにする。	10月5日(日) 会場：南町スポーツ・文化交流センター「きらっと」
	② 働き盛り・子育て世代のスポーツ機会の充実 スポーツをする時間を確保することが難しい、働き盛り・子育て世代のスポーツ機会を創出するため、夜間・休日の各種講座や教室等の充実、公共スポーツ施設への保育機能を提供します。 また、子育て世代に向けては、親子・家族でスポーツを実施する機会を充実していきます。	指定管理者	総合体育館にキッズルームを設置し、子育て中でも運動が出来る環境の整備	・キッズルームは原則毎日稼働 ・託児付き教室も開催	4	4	4	4	4	キッズルーム利用者が徐々に増っており、託児所利用中に親が運動する機会が多くなった。	A	託児付き教室の要望が多いが、保育士の確保及び費用面で課題がある。	総合体育館にキッズルームを設置し、子育て中でも運動が出来る環境の整備に向けて検証する。
		体育協会	スポーツ教室の実施	スポーツ教室の実施：参加人数約9,000名	4	4	4	4	4	計画通りに実施できた。	A	スポーツ教室の継続実施	相談窓口はLINE相談を増やし、これまでの実績を上回る相談数を目標とする。
		総合型地域スポーツクラブ	夜間教室の開催(に)	夜間体育館を活用、テニスサークルの充実(に)	3	4	5	4	3	場所的に交通機関より遠方のため交通の不便等難しい部分もあるが、子供の通学中の時間を活用して日中の教室に参加頂いている。(に)	A	・グラウンドの照明が無いため夜間提供不可、体育館の冷暖房無しの為利用者の体調管理に問題がある。(に) ・テニスサークルが多数のため抽選方法の改善(に)	出来る限りの環境維持、親子で楽しめるイベントの検討(に)
			テニス、バドミントンなど、親子でも成人でも参加しやすい環境の整備(金曜日の夜に開催)(コ)	令和6年度は大人の参加者は減少気味だが、親子で参加している会員もいる。(コ)	3	4	4	4	4	・波はあるものの、親子連れや働き盛りの方でも参加しやすいよう検討した。(コ) ・父親の参加を促すのが課題である。(コ)	A	共働き世帯は、土日に行事やイベントなどあると親の参加はおろか子どもも不参加のケースが多く夜間とはいえ難しい。(コ)	現状で開催していることを引き続き告知する。(コ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	・ENJOYニュースポーツ(毎月最終日曜日開催) ・指定管理者と連携し、キッズルームの周知やイベント実施の周知	・市内在住・在勤・在学者(小学生以上) ・毎月最終日曜日開催 12回開催 372名参加 ・実施種目：ポッチャ、モルック、輪投げ等	4	4	4	4	4	誰でもできる種目を選択し、計画通りに実施した。	A	実施種目の検討をしながら引き続き実施する。	毎月最終日曜日開催 3月については交流会を開催する。
	③ スポーツに親しむきっかけづくり【再掲】 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができるよう、親しみやすい初心者向け教室やイベント、ニュースポーツイベント等を企画・開催します。	指定管理者	モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催	・モルック体験会は年5回 ・スポーツフェスティバル開催し、ニュースポーツを体験していただく事ができた。	4	4	4	4	4	モルック体験会の大会では天候による中止があったが、多くの方に参加いただけた。	A	スポーツフェスティバルの開催時期の再検討が必要。(市総体等と被ってしまう)	モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催
		体育協会	スポーツまつりの実施	スポーツまつりの実施：参加人数約3,700名	4	4	4	4	4	ほぼ計画通りであったが、参加年齢層に偏りが見られた。	A	スポーツまつりの種目を検討し、誰でも参加し易いイベントにする。	スポーツまつり競技種目及びイベントで参加しやすいものを10月13日までに決める。
		総合型地域スポーツクラブ	会員利用日の開放もあり、1人でも参加実施(に)	全教室、サークルなど初回無料体験(に)	5	5	5	5	5	テニス、卓球、グラウンドゴルフ等、交流会を複数開催。(に)	A	卓球初心者向けの受け皿がない。(に)	初心者向けの卓球教室検討中(に)
			全てのプログラムが初回無料体験(コ)	設立時から初回体験無料は継続(コ)	4	4	4	4	4	初回体験無料を継続していく。(コ)	A	プログラムによっては定員いっぱいのため順番待ちのケースもあり、反対になかなか増えないプログラムも目に付く。(コ)	開催場所や回数などには限りがあるため現状のまま継続していく。(コ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	ENJOYニュースポーツ(毎月最終日曜日開催)	・市内在住・在勤・在学者(小学生以上) ・毎月最終日曜日開催 12回開催 372名参加 ・実施種目：ポッチャ、ユニカール、モルック等	4	4	4	4	4	誰でもできる種目を選択し、計画通りに実施した。	A	実施種目の検討をしながら引き続き実施する。	毎月最終日曜日開催 3月については交流会を開催する。

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標				
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					担当課評価コメント	評価	次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点										
					I	II	III	IV	V						
④	競技力向上につながるスポーツの機会の充実、活動の支援【再掲】 スポーツへの意欲が高く、競技力の向上を目指す人の活動を支えるため、市内及び周辺地域の指導者やクラブの情報提供、活動の支援等に取り組めます。	指定管理者	・各子供教室(プール、バスケ、体操など) ・指導者講習会の開催	・各子供教室は通年を通して開催 ・指導者講習会は講師選定が困難の為未実施	4	4	4	4	4	各館で15教室実施しており、参加人数も前年比105%増となった。	A	指導者講習会の講師選定が困難	・各子供教室(プール、バスケ、体操など) ・指導者講習会の開催		
		体育協会	・都民スポーツ大会や市町村大会等上部大会への選手派遣 ・スポーツ相談窓口の充実	・都民スポーツ大会は参加人数210名、市町村大会は参加人数132名 ・スポーツ相談窓口の相談実績50件	3	4	4	4	4	大会参加は計画通り。 スポーツ相談窓口は相談しやすい環境整備が必要。	A	・上部大会への参加要請は引き続き行う。 ・スポーツ相談窓口の利用促進のための広報活動を行う。	・上部大会への参加者数は昨年並みを目標とする。 ・相談窓口はLINE相談の増で前年度以上の実績を目標とする。		
		総合型地域スポーツクラブ	・バドミントン教室では中級以上は競技の向上を目指している(に)	・競技力向上を目指しラケットショップフジよりコーチを招きバドミントン、テニス教室多数実施(に)	4	4	5	4	5	・バドミントンは初級2クラス、中級3クラス(に) ・テニスは11クラスプロの指導者が実施(に) ・テニスコートも新規整備完了(に)	A	認知度が高くない。(に)	ホームページの充実、市報での紹介(に)		
			・競技力向上を目指す特別クラスの設置(コ)	・基本現状通りの事業実施を継続(コ)	3	4	4	4	4	早稲田大学東伏見キャンパスが近くにある地域性を生かし、スポーツ部の協力をいただき競技力向上事業を実施することができた。(コ)	A	参加者も比較的安定しているが、収益は期待できない。(コ)	eスポーツなどの導入も検討していきたい。(コ)		
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	・体育協会、指定管理者等で実施している各種スポーツ教室等を周知する。 ・ポッチャ等の指導派遣(スポーツ推進委員)	・地域自治会、公民館等からの要請によるスポーツ推進委員の派遣	4	4	4	4	4	引き続き可能な範囲で対応していく。	A	派遣依頼の時期、人員により引き続き実施する。	・体育協会、指定管理者等で実施している各種スポーツ教室等の周知 ・公民館等からの要請によるスポーツ推進委員の派遣		
(3) 高齢者のスポーツ推進	① スポーツに親しみきっかけづくり【再掲】 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができるよう、親しみやすい初心者向け教室やイベント、ニュースポーツイベント等を企画・開催します。 スポーツへの意欲の高い高齢者のスポーツの実施機会の拡充のために、高齢者クラブの活動支援や、高齢者がメインのスポーツ大会、シニアスポーツを企画・開催します。	高齢者支援課	・高齢者クラブの活動支援のため補助金の交付を行う。	・高齢者クラブへの補助金の交付 ・西東京市高齢者クラブ連合会では一年にベタンク2回、グランドゴルフ1回、輪投げ2回大会が開催された。 また、女性部でもダンス等の発表会が行われており、スポーツに親しみをもつ様子が見られる。	3	3	3	3	3	補助金を交付し、適切に補助金が利用されているか確認した。	B	補助金の確定・交付業務を効率的に行う。	引き続き適切な補助金業務を行い、大会開催を継続できる様にする。		
		指定管理者	・モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催	・モルック体験会年5回開催 ・スポーツフェスティバルも開催しニュースポーツの体験にもつながった。	4	4	4	4	4	スポーツフェスティバルでは149名の参加があった。	A	スポーツフェスティバルの開催時期の再検討が必要。(市総合体育大会等と同じ日になってしまう)	モルック体験会、スポーツフェスティバル、ニュースポーツ体験会の開催		
		体育協会	・スポーツまつりの実施 ・シニアスポーツ振興事業の実施	・スポーツまつりの実施:参加人数約3,700名 ・モルック体験教室の実施:参加延べ人数35名 ・東京都スポーツ協会から補助を受けてシニア事業実施 スポーツ振興事業を実施:参加人数360名	4	4	4	4	4	計画通りに実施できた。	A	・スポーツまつりで高齢者が参加しやすい種目を検討する。 ・モルック等高齢者が参加しやすいイベントを検討する。	・スポーツまつり競技種目及びイベントで参加しやすいものを10月13日までに決める。 ・モルックは1日当たりの参加者数を20名以上とする。		
		総合型地域スポーツクラブ	・グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ・ポッチャ・卓球交流会を企画開催予定(に)	・グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ・ヨガ・ポッチャ・テニス・卓球交流会を開催(に)	5	5	5	5	5	交流会を楽しみに沢山の方々が参加し、大変好評だった。(に)	A	認知度をより高める。(に)	ホームページ、市報による一般への交流会参加者募集(に)		
			・健康体操・ヨガ・ピラティスなど定期開催。他に年1回期間限定の散歩・ウォーキング事業を実施予定(コ)	・定期事業を開催しながら、近場での散歩・ウォーキングを実施	4	4	4	4	4	・年間を通して高齢者向けに実施できた。(コ) ・スポットとしてウォーキングを実施した。(コ)	A	継続して定着した事業にする。	継続して定着した事業の実施		
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	・ENJOYニュースポーツ(毎月最終日曜日開催)	・市内在住・在勤・在学者(小学生以上) ・毎月最終日曜日開催 12回開催 参加人数372名 ・実施種目:ポッチャ、モルック、輪投げ等	4	4	4	4	4	誰でもできる種目を選択し、計画通りに実施した。	A	実施種目の検討をしながら、引き続き実施する。	毎月最終日曜日開催 3月については交流会を開催する。		
		②	スポーツを通じた介護予防・フレイル予防の推進 スポーツを通じた介護予防・フレイル予防を推進するため、セミナーの開催、運動・体操プログラムの提供、高齢者向け体カテスト等の機会の充実やICTを活用したオンラインによるスポーツ対戦や体操等の取組を推進していきます。	高齢者支援課	・介護予防講座の開催及び福祉会館等に設置しているトレーニングマシンの一般開放を行う。また、デジタルに触れるきっかけとして高齢者向けのeスポーツの推進を行う。	・介護予防講座は体操をメインとした内容構成にした。 ・トレーニングマシン一般開放は、住吉老人福祉センター3,418人、下保谷福祉会館1,524人、老人福祉センター4,046人、新町福祉会館2,213人が利用した。 ・日々のトレーニングの効果を確認してもらうため、体力測定日を引き続き設けた。	3	3	3	3	3	委託先や福祉会館と連携をとり、問題なくトレーニングマシンの一般開放を行えた。	B	トレーニングマシンの利用者が増加しているため、安全面に気をつけること。	引き続きトレーニングマシンを円滑に運用できるように管理する。
				指定管理者	・シルバーウィークの開催 ・フレイルセミナーの開催 ・健康マージャン開催	・シルバーウィーク、健康マージャンを開催 ・フレイルセミナーの代わりに健康マージャン入門教室&大会を実施	4	4	4	4	4	シルバーウィークでの健康体操、水中ウォーキング健康麻雀イベントに86名参加	A	フレイルサポーターの講習会参加が困難。	・シルバーウィークの開催 ・フレイルセミナーの開催 ・健康マージャン開催
				体育協会	・シニアスポーツ振興事業の実施 ・スポーツ相談窓口の充実	・モルック体験教室の実施:参加延べ人数35名 ・東京都スポーツ協会から補助を受けてシニアスポーツ振興事業を実施:参加人数360名	4	4	4	4	4	計画通りに実施できた。	A	より多くの方に参加できるよう計画する。	・モルックは1日当たりの参加者数を20名以上とする。 ・シニア事業の参加人数を令和6年度以上を目標とする。
				総合型地域スポーツクラブ	・今後は体カテスト、体操など実施予定(に)	・スポーツ時の様々なトラブルの予防にAED講習会を体育館で実施(に)	3	3	5	4	4	・体カテストを実施予定(に) ・現状は各種目実施により、高齢者が負担少なく頭の体操や交流、体力づくりが出来ている。(に)	A	令和6年度と同じくAED講習会などを実施する。(に)	ラグビーの競技人口が少ないのでイベントなど実施したい。(に)
					・既存のプログラムの継続とeスポーツの新規導入を検討(コ)	・新しいプログラムの検討を行った。	4	4	4	4	4	クラブの教室間の繋がりがりや会員同士のコミュニケーションや繋がりがりから、新たなプログラムへの参加を促すこともある。(コ)	A	引き続き既存のプログラムの継続と新しいプログラムの検討を行う。(コ)	指導者講習会の検討(コ)

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課評価コメント	評価
I	II	III	IV	V									
		スポーツ振興課 (スポーツ推進委員)	体カテスト(10月)の実施	10月 体カテスト実施	4	4	4	4	4	特に働き盛りの方から高齢者まで参加していただき、健康づくりのきっかけになった。	A	3月に東京都国民健康保険団体連合会から骨密度計測器の借用を打診したが、すでに他市区への貸出が決定していたため借りれなかった。次年度は実施日程が決まり次第、借用依頼をかけるようにする。	体カテストを実施 (令和7年10月5日(日)開催予定)
③	スポーツを通じた地域参加の機会の充実 スポーツを通して、地域での仲間づくりや生きがいづくりを行うことができるよう、地域包括支援センターや地域サポート「りんく」等と連携し、ボランティア等の活躍の場や機会を充実するとともに、地域参加の機会を充実していきます。	高齢者支援課	スポーツ相談窓口等関係機関との連携の検討	高齢者の通い場では、積極的に体操メニュー(1回15分以上)を取り入れることを推奨とし、具体的にどのようなことを行えばよいかわからない団体には、個別で相談対応をした。(体操指導できる講師の紹介や理学療法士による運動出張講座の紹介)	3	3	3	3	3	1回15分以上体操を実施している通い場がほとんどであり、計画通り遂行できた。	B	スポーツ相談窓口をどのように活用したらよいか通い場の担当者が理解していなかったため、連携はなかった。	スポーツ相談窓口事業連絡会に通い場担当者が出席し、必要な時に連携が図れるようにしていく。
		スポーツ振興課	高齢者支援課との取組連携・検討	・市民参加型のプログラムやイベントにより、人や地域とつながる機会を創出した。 ・市民スポーツまつり 参加人数 約3,700人	4	4	4	4	4	誰でもできる種目を選択し、計画通りに実施した。	A	多世代の市民が参加し、スポーツを通して交流を図れるよう、引き続きイベント内容を検討して実施する。	市民スポーツまつりの開催 (令和7年10月13日(月・祝)開催予定)